

頭陀袋 49 平成二十八年七月号

発行 中山かんのん

恩林寺

中山中学下、電話三四一―一二四五



財宝を迎える人

(外見、お金、人間関係)

昔、インドのある村に「シヨウキヤ バッタ」という名の商人がいた。富豪の家の子弟であったが、家は次第に衰退して、貧乏の極みまで落ちてしまい、親戚、知り合いも、誰も皆、彼を軽蔑して相手にしようとはしなかった。そこでシヨウキヤは「こんなにさげすまれるぐらいなら、いっそ、家を出てしまおう。」と、思い、同伴のものと一緒に故郷を捨てて大秦国に行った。そして長い年月をかけておおいに財宝を得ることができ、文字通り故郷に錦を飾ることができた。すると、これを伝え聞いた親戚縁者はそれぞれ御馳走を用意し、花を飾り、音楽を鳴らして、シヨウキヤの凱旋を出迎えた。シヨウキヤはそれを知り、わざと貧乏そうな身なりをして、行列の前のほうを歩いた。もう、彼の顔を覚えている人もなく、誰がシヨウキヤなのかさっぱりわかりません。誰かがシヨウキヤを捕まえて「シヨウキヤさんはどこですか？」と聞くので、彼は、「もつと後ろのほうですよ。」と、とぼけて答えた。そこで皆が後ろのほうに行き「シヨウキヤさんはどこですか？」と、尋ねると、「シヨウキヤさんなら行列の前をあるいている人ですよ。」

「なんだ。さっき聞いた人がシヨウキヤさんじゃないか。」と、わかり彼のところに向か

って文句をいった。「あなたは先ほど、どうして後ろから来る人がシヨウキヤさんだといつたのですか？人をからかうのもいい加減にしてください。」すると彼は親族一同に向かつて「からかつてはいけません。あなたたちのさがしているシヨウキヤは、私ではなく、後ろにいる、あのラクダの上の財宝を迎えに来たのに違いなから、シヨウキヤは後ろにいるといつたのです。」

それを聞いて、皆は恥ずかしそうにすぐごとその場をはなれていった。

十何びとも金持ちは友達である。金さえあれば神様さえ君を愛するであろう。しかし、万一貧しければ肉親でも君を憎むであろう。心のうらおもてみたいな話ですね。人間つてあさましい。

*お施餓鬼法要のご案内

例年の通りおせがき法要を務めさせていただきたいと思えます。黄檗宗第十八教区(岐阜県内寺院)では、六月末日より、九月初めまで、お施餓鬼法要を巡回いたします。今年も第一号は高山、恩林寺です。法要の内容は中国式で大変珍しい、ということもありますがお施餓鬼の目的として、「わたくしにかかわる祖先、親戚、縁者、嬰兒、水子、家畜、ペットに至るまで、三界の萬靈を供養する」というありがたい法要であります。お経の中には魑魅魍魎まで供養すると説いてあります。」

日時 六月二十六日、午前十一時

会場 恩林寺本堂

続いて法話 岐阜真聖寺村瀬正光

禅師様(演題 おせがきの功德)

終了後お齋があります。

*御回向希望の方、ご出席くださる方は二
十三日ころまでに申し出ください。